

ひまわり

男女共同参画推進室ニュースレター

HiMaWaRi

University of Hyogo Marvelous Women Researchers

Vol. 16
平成28年9月発行

発行:兵庫県立大学男女共同参画推進室
〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1
TEL:078-792-4822 FAX:078-794-5575

女性研究者支援室は「**男女共同参画推進室**」として新しく発進しました。

ごあいさつ — 室長 片田範子 (副学長)

平成 28 年 4 月に着任してから、既に半年が過ぎようとしています。これまで「ひまわり」を発刊している女性研究者支援室は、今年度から男女共同参画推進室となりました。お部屋の名前や室長の変更にもかかわらず、女性研究者支援事業に関わる人々は着実に活動を進めています。男女共同参画社会という言葉の基本となる法律が策定（平成 11 年）されて、既に 17 年が経過しています。日本国憲法に保障されている法の下での平等が存在していたのになぜあえてこの法律が設置されたのか、また、なぜ日本の知識人を育む大学組織に「女性研究者支援」事業が措置されているのか。必然と矛盾を感じながら、職責を果たそうと努力しています。機会を平等につかみ取る機会が、今の日本社会には十分に整備されていないということだと思います。差別するつもりも、差別されている意識も、その当事者となるとなかなか実感できない、したくないものなのだと思います。それでも男女で働くことは健全なことであり、当然のことで、楽しいことです。働き方、こだわり方、決断の仕方は、それぞれに違います。そのため、お互いの構成員の異なりが明らかになり始めると、はじめは戸惑うものです。看護学部発足の時に一緒にいた男性研究者は「女性が多いので、優しいと思った」と言われました。ステレオタイプからの脱却はお互いを知ることです。ただ、この思い込みを育ててきた社会の考え方や感受性を豊かにしていくことは、思い込みと気づかないゆえに至難です。極端な例かもしれませんが、最近報道されている障害者を対象とした施設での悲惨な事件、いじめなども我々が根底にもつ価値観への挑戦だと思います。それらを乗り越え、楽しく働ける環境をつくりたいものです。決めつけず、多様な自分たちを、そして多様なニーズを持つ人々たちを、寛容できるのが知を生み出す大学であってほしいと思っています。時に勇気が必要な時代、発現する勇気を支えることができる大学を求めます。

さて、本学で行われてきたことを確認させていただきます。平成 25 年度より文部科学省科学技術人材育成補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、昨年度末に補助期間を終了しました。この間、本学では「女性研究者支援体制の確立」「女性教員比率の向上」「競争的資金の申請・採択率の増加」、そして「大学院博士課程（前期・後期）女子学生比率の

向上」を目標に掲げてきました。最も大きな成果は、ライフイベントと研究の両立に対する全学的な支援体制が確立されたことです。意思決定のトップダウンを可能にする縦の体制整備に加えて、8 キャンパスに女性研究者支援室分室を置き、横の連携を構築しました。これにより、キャンパスごとのきめ細やかな支援が可能となっています。

目標に対する個別の数

値を見ますと、女性教員比率は、期間中に 30 名の女性教員を新たに迎えたことにより、平成 25 年度の 20.7%から平成 27 年度には 21.7%へと上昇しています。また、競争的資金についても、平成 27 年度の女性教員の申請率は 87.8%、新規採択率は 26.0%と、平成 25 年時よりも 9.4 ポイント、5.3 ポイント上昇しており、女性教員の研究力が発揮されつつあります。ただし、理/工学部の大学院女子学生比率については微増に留まっていることから、裾野拡大についてより重点的な取り組みが始まっています。また本学が誇るべきは、理念としては共有されていても実行は難しいとされているポジティブ・アクションを実行している点です。工学部の女性限定公募は昨年度より枠を拡大(1 枠→3 枠)していますし、同じく工学部では他大学に先駆けて「女子学生特別推薦入試」(15 枠)を実施しています。さらに上位職への登用も積極的です。

女性研究者への支援は、女性だけに資するものではありません。女性が働きやすい環境の創出は、本学に所属する全ての構成員にとってもまた、働きやすく・学びやすい大学を創り上げることに他なりません。Productive age の教職員・学生を抱える大学に子育て支援の利用率を上げることで、全学挙げての男女共同参画の成果を示すことも考えられないでしょうか？この勢いを加速させるべく、男女共同参画を推進してまいります。



最高学府であるところの大学に求められていることは、「究極的に人類の存続を確かにするに資する研究」とそれに基づく人材の育成です。新たなアイデアが求められる現在、そのような研究遂行のために、人類を構成する両性が貢献することの必要性はこれまで以上に高まっています。また、職業人として大学の構成員が男女の垣根なく職務に取り組む姿は、卒業後社会人となる学生の今後の行動およびその背後にある潜在意識にも影響を及ぼすでしょう。そのように考えると、最高学府たる大学における男女共同参画のありようがどうたるかが持つ社会的責任は重いものです。その重さを大学人として共有するための取り組みを、牛歩のようではあっても着実に進めていければと願っています。

兵庫県立大学では、男女共同参画による教職員のワーク・ライフ・バランスの充実にむけて、シンポジウム・研修会の開催、ニュースレターの発行、ロールモデルの放送、男女共同参画に関するアンケートの実施と分析などの広報啓発活動を展開しております。昨年度は、学生・院生ためにキャリアパス相談会を実施しました。参加された男女の学生さんにご自身のキャリアパスにむけて真摯に取り組まれていました。学生・院生のキャリア支援にお役にたてるのが大切との思いを強くしました。この4月から男女共同参画推進のための啓発・意識改革を担当することになりました。これらの活動の継続と発展のため微力ながら努力をしております所存です。今後とも皆様方のご協力・ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

4つの方針

女性研究者研究活動支援の継続拡大



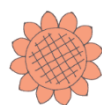
ワーク・ライフ・バランスのための研究環境整備
 …研究支援員の配置
 英語論文執筆・科研費獲得等の各種セミナーの実施

テニュアトラック制度の定着



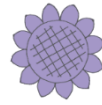
若手育成・優秀な人材の発掘
 …H27：1 枠、H28：3 枠（ともに工学）

女性教員の上位職登用



研究主催者（Principal Investigator）の任命
 女性リーダーの育成
 …H28 年：女性副学長、学長特別補佐 2 名

男女共同参画教育



導入教育・キャリア教育の一環として実施
 …H28：経済・経営、H29：全学展開

男女共同参画推進室・室員

推進室	室長	片田範子：副学長	神戸商科	推進員	和田真理子：経済学部准教授
	学長特別補佐	萩原弘子：経済学部教授		支援員	米村慈：事務嘱託員
	学長特別補佐	吉村美紀：環境人間学部教授	姫路工学	推進員	三浦永理：工学研究科准教授
	副室長	三浦永理：工学研究科准教授		支援員	竹本康子：事務嘱託員
	副室長	釜江義明：経営部長	播磨理学	推進員	長谷川康正：物質理学研究科准教授
	室長補佐	横山由紀子：経営学部教授		推進員	生沼泉：生命理学研究科教授
	室長補佐	伊藤恭子：生命理学研究科准教授	姫路環境	支援員	森田和美：事務嘱託員
	室長補佐	竹原歩：看護学部助教		推進員	吉村美紀：環境人間学部教授
	課長	多田敦生：次長兼総務人事課長	明石看護	支援員	内藤由佳子：事務嘱託員
	課長	杉本明彦：総務人事課主幹		推進員	塩見美抄：看護学部助教
	コーディネーター	山口真紀：特任助教	神戸情報	支援員	富士原功子：事務嘱託員
	職員	前田秋代：課長補佐		推進員	石垣恭子：応用情報科学研究科教授
	職員	板本直樹：主査	淡路緑環境	推進員	豊田正博：緑環境景観マネジメント研究科准教授
	主任支援員	清水美野理：事務嘱託員	豊岡ソコウノリ	推進員	中井淳史：地域資源マネジメント研究科教授